

2015年度(平成27年度)「自ら考え学ぶ授業づくり」アクションプラン

<学校用>

校番(25)番 福山市立 一ツ橋 中学校

1 授業の現状

生徒が「自ら考える場面」等を授業展開の中で設定したり、考えさせる発問を工夫したりしているが、依然として教員による一方的な講義形式の授業となっており、生徒は受動的な学びになっている。

転換

2 めざす授業の姿

繰り返す中でしっかり定着させた基本的な知識・技能や生活体験から得た知識等すべてを活かしながら、他の生徒と意見を交わす中で、生徒自らが主体的に課題解決を図る授業。

3 めざす授業に向けた取組の具体

4月からの取組	8月末の状況	9月からの取組	12月末の状況	1月からの取組	2月末の状況
<ul style="list-style-type: none"> 授業の中に「自ら考える」場面を設定する。 単元指導計画の中に「重点」を加え、よりつけたい力を明確にする。 ユニバーサルデザインの授業づくりを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒アンケート「先生の指示や質問はわかりやすい」の肯定的評価 91.7% △「自ら考える場면을授業に取り入れている」のアンケートの肯定的評価が教職員 73.7%, 生徒 79.9% ○「本時のめあて」の提示、「一指示・一動作」の意識ともに教職員アンケート 83.3% 	<ul style="list-style-type: none"> ◎「自ら考える場面」のより充実を図る。 ・個人・ペア・グループの活動形態を工夫する。 ・自分の考えを記述するなど思考を深める取組を充実する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒アンケート「先生の指示や質問はわかりやすい」の肯定的評価 92.9% △「自ら考える場면을授業に取り入れている」のアンケートの肯定的評価が教職員 78.9%, 生徒 83.6% ○「本時のめあて」の提示、「一指示・一動作」の意識ともに教職員アンケート 100% 	<ul style="list-style-type: none"> ◎「自ら考える場面」のより充実を図る。 ・個人・ペア・グループの活動形態を工夫する。 ・自分の考えを記述するなど思考を深める取組を充実する。 	

4 取組の結果

数値は2015年(H27年)調査等の状況

全国学力・学習状況調査(%)

	A 問題	B 問題
国語	72.2(-4.3)	64.9(-2.1)
数学	59.1(-5.5)	35.3(-7.4)
理科	44.9(-7.3)	

()は県平均との差

「基礎・基本」定着状況調査(%)

	タイプ I	タイプ II
国語	74.9(-0.8)	67.1(+2.3)
数学	75.6(+1.4)	63.8(+6.6)
理科	49.3(-1.7)	47.1(-2.0)
英語	69.6(-0.6)	55.0(-5.6)

体力・運動能力調査 (網掛は県平均以上)

男子	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	蹴球	50m 走	立ち幅とび	ボール投げ	女子	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	蹴球	50m 走	立ち幅とび	ボール投げ
1年	24.82	23.76	37.98	49.18	444.6	8.60	182.1	15.56	1年	24.35	21.36	43.90	46.44	318.8	8.98	166.9	12.04
2年	30.52	29.36	43.23	55.09	395.9	8.00	199.7	18.41	2年	24.64	23.17	41.38	47.26	299.3	8.91	170.2	11.66
3年	37.79	30.05	43.19	56.09	395.9	7.57	213.3	21.49	3年	26.53	24.60	47.96	46.83	310.5	9.02	171.9	13.78

* 空欄には、20m シヤトルランか持久走のいずれかを記入

「基礎・基本」定着状況調査 (生徒質問紙調査)(%)

内 容	国語		数学		理科		英語	
	よく	やや	よく	やや	よく	やや	よく	やや
授業が分かる	28.2	60.0	31.8	37.6	23.5	54.1	57.6	28.2
学校が楽しい	84.7							

暴力行為発生・不登校生徒率(%)

		(11)月末現在	
暴力行為	1.0	不登校	3.3

小中一貫教育に係るアンケート[対象:授業者] (%) (10)月実施

内 容	よく当てはまる	当てはまる
仕事に意義とやりがいを感じている	5.9	47.1
日々の仕事に充実感がある	0	29.4